

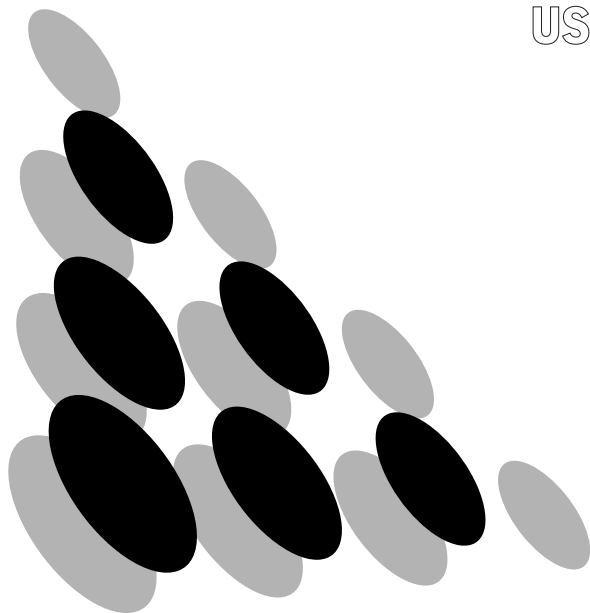
# PRIMERGY

リモートサービスボード  
(PG-RSB101S)

取扱説明書 J

Remote Service Board  
(PG-RSB101S)

USER'S GUIDE E



# はじめに

---

このたびは、弊社のリモートサービスボード PG-RSB101S（以降、本製品と記述）をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

本書は、本製品の取扱方法を説明しています。

本書をご覧になり、本製品を正しくお使いいただけますよう、お願いいたします。

2002年1月

J

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではございません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

当社のドキュメントには「外国為替及び外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

## 安全にお使いいただくために

---

本書には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、本書を熟読してください。特に、本書の冒頭の「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解された上で本製品をお使いください。また、本書は、本製品の使用中にいつでも参照できるよう大切に保管してください。

## 安全上のご注意

---

本製品を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。本書では、本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するための目印として、以下のマークとともに表示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

### ■ 万一、異常が発生したとき

---



#### プラグ

万一、装置から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生した場合は、ただちに装置本体の電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が消えるのを確認して、担当営業員または担当保守員に修理をご依頼ください。お客様自身による修理は危険ですから絶対におやめください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。

---



### 感電

本製品を拡張ディスク装置に着脱する際には、安全のため本装置、サーバ本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。電源をいれたまま本製品の着脱を行うと、装置の故障・発煙などが起こる可能性があります、また感電の原因となります。

### 禁止

- ・ 本製品は精密に作られていますので、高温・低温・多湿・直射日光など極端な条件での使用・保管は避けてください。また、製品を曲げたり、傷つけたり、強いショックを与えたりしないでください。故障・火災・感電の原因となることがあります。
- ・ 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- ・ 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。また、タコ足配線をしないでください。火災・感電の原因となります。

### プラグ

近くで雷が発生したときは、電源ケーブルやモジュラーケーブルをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、雷によっては装置を破壊し、火災の原因となります。

### 警告

取り外したカバー、キャップ、ネジ、電池などは、小さなお子様が誤って飲むことがないように、小さなお子様の手の届かないところにおいてください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

### 分解

本製品を勝手に改造しないでください。火災・感電の原因となります。



### 禁止

- ・ 電源プラグを抜くときはケーブルを引っ張らず、必ずプラグを持って抜いてください。ケーブルを引っ張ると、ケーブルの芯線が露出したり切断したりして、火災・感電の原因となることがあります。

### 指示

- ・ 電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。火災・故障の原因となります。
- ・ 本製品をご使用にならない場合は、静電気防止のため付属の梱包袋へ入れて保管してください。

---

## ■ 電池の取り扱いについて

---



### 警告

使用している電池を取り外した場合は、小さなお子様が発電機を誤って飲むことがないように、小さなお子様の手の届かないところにおいてください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。



### 禁止

- ・ マニュアルに記載されていない電池は使用しないでください。電池の破壊、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。
- ・ 電池はショートしたり、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れてたりしないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。
- ・ 乾電池は充電しないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。

### 指示

電池を取り付ける場合、極性のプラス（+）とマイナス（-）の向きに注意してください。間違えると電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚す原因となります。

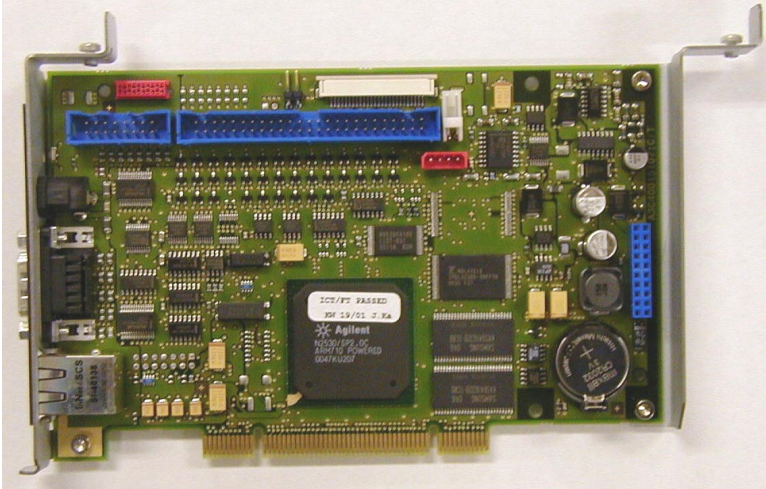
---

## 梱包物の確認

---

本製品には以下のものが梱包されています。お使いになる前に必ずご確認ください。万一、足りないものがございましたら、恐れ入りますが担当営業員までお申しつけください。

- PCI カード



- ServerView CD (CD-ROM1 枚)
- 保証書
- 取扱説明書 (本書)

# 本書の表記について

---

## ■ 本文中の表記

本文中では、以下の表記・記号を使用しています。

### ☞ ポイント

本文中の内容を補足することが書いてあります。



# 目 次

---

第 1 章	本製品について	1
1.1	特 長	1
1.2	名称と働き	2
第 2 章	本製品の取り付け	3
2.1	作業をはじめるまえに	4
2.1.1	用意するもの	4
2.2	取り付け	5
2.2.1	拡張ディスク装置への取り付け	5
第 3 章	LAN の接続	6
3.1	LAN ケーブルの接続	6
第 4 章	本製品の使用方法	7
4.1	設定	7
4.2	Web インタフェース	8
4.3	RemoteControlService	8
4.4	ServerView	9
4.5	電源連動	10
4.6	留意事項	13
付録		14
1	仕 様	14
2	ファームウェアのアップデート	15
3	ServerView のインストール	18

# 第 1 章 本製品について

---

この章は、本製品の特長、各部の名称を解説しています。

## 1.1 特 長

本製品は、専用の CPU ・ OS ・ 通信インターフェースにより、拡張ディスク装置の状態に依存せずに動作し、拡張ディスク装置の電源制御、および、状態監視を行うハードウェア製品です。

対象装置：

- ・ PRIMERGY S60

本製品は、関連ソフトウェア（ServerView、RemoteControlService）と連携し、以下の機能を管理者に提供します。

- 拡張ディスク装置の状態監視
- 拡張ディスク装置異常時の管理者への通知
- 拡張ディスク装置の遠隔操作
- サーバ本体と連動した拡張ディスク装置の電源制御（電源連動）

### ポイント

電源連動を行うためには、サーバ本体にリモートサービスボード（PG-RSB101）が搭載されている必要があります。

また、本製品は次の通信インターフェースをサポートしています。

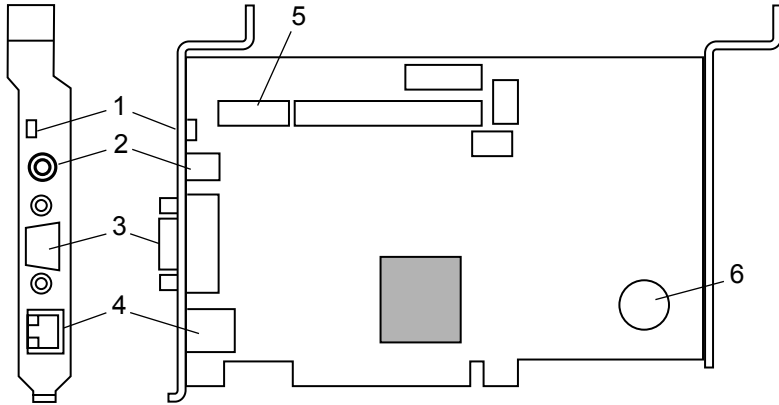
- LAN（10BASE-T/100BASE-TX）

### ポイント

LAN ケーブルはオプションです。  
本製品には含まれません。

## 1.2 名称と働き

ここでは、本製品の PCI カードの各部の名称と働きを解説します。



### 1 電源ランプ

本装置がレディ状態である時に緑色に点灯します。

### 2 外部電源用コネクタ

AC アダプタを接続するコネクタです。

本製品では使用しません。

### 3 シリアルポートコネクタ (9 ピン)

外付けモデム (オプション) を接続するコネクタです。

本製品では使用しません。

### 4 10/100BASE-TX コネクタ

非シールド・ツイストペア (UTP) ケーブルを接続します。100Mbps で使用する場合には、カテゴリ 5 に属したケーブルが必要です。

### 5 拡張ディスク制御コネクタ (16 ピン)

拡張ディスク制御ケーブル (16 ピン) を接続します。

### 6 リチウム電池 (上面 : +、下面 : -)

## 第2章 本製品の取り付け

---

この章は、リモートサービスボードを拡張ディスク装置に取り付ける方法を説明しています。

リモートサービスボードをご使用になるために、以下の流れ図に従って、リモートサービスボードの取り付け、LANの接続を行ってください。

取り付け方法の詳細については、拡張ディスク装置添付の取扱説明書を参照してください。

1. 準備  
↓  
→ 「2.1 作業をはじめるまえに」
2. 拡張ディスク装置の設定  
↓  
→ 「2.2.1 拡張ディスク装置の取り付け」
3. LANの接続  
→ 「3.1 LANケーブルの接続」

## 2.1 作業をはじめるまえに

拡張ディスク装置に取り付ける作業をはじめるまえに、あらかじめ以下の準備を行ってください。

### 2.1.1 用意するもの

作業をはじめるまえに、以下のものをご用意ください。

- リモートサービスボード
- 拡張ディスク装置に添付の取扱説明書

---

## 2.2 取り付け

ここでは、リモートサービスボードの取り付け手順について説明します。  
取り付けをはじめるまえに、本書の「2.1 作業をはじめるまえに」を参照し、必要な作業を行ってください。

### 2.2.1 拡張ディスク装置への取り付け

ここでは、拡張ディスク装置にリモートサービスボードを取り付ける場合の留意事項を説明します。



#### 感電

本製品を拡張ディスク装置に着脱する際には、安全のため拡張ディスク装置および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。

電源をいれたまま本製品の着脱を行うと、装置の故障・発煙などが起こる可能性があります、また感電の原因となります。



#### 指示

- ・ 拡張ディスク装置のカバーの取り外し、取り付けを行うときは、拡張ディスク装置に添付の取扱説明書にしたがって作業を進めてください。
- ・ リモートサービスボードは静電気の影響を受けやすいので、導伝パッドなどの上に置くか、取り外した直後、または取り扱う直前まで梱包袋に入れておいてください。

- 
- ・ 拡張ディスク装置を制御するための制御ケーブルは、リモートサービスボードの拡張ディスク制御コネクタ（16ピン）に接続します。取り付け方法は、拡張ディスク装置に添付の取扱説明書を参照してください。
  - ・ 本製品を使用する場合、拡張ディスク装置側の設定の変更が必要です。詳細は、拡張ディスク装置に添付の取扱説明書を参照してください。

## 第3章 LAN の接続

---

この章は、リモートサービスボードに LAN を接続する方法を説明しています。リモートサービスボードに LAN を接続することにより、本体サーバとの電源連動を行ったり、リモートサービスボードから異常通知（SNMP トラップ、E-mail）を送信したりできるようになります。

### 3.1 LANケーブルの接続

ここでは、リモートサービスボードに LAN ケーブルを接続する手順を説明します。

#### ■取り付け手順

1. LAN ケーブルをリモートサービスボードに接続します。  
用意した LAN ケーブルのコネクタを、リモートサービスボードの 10/100B ASE-TX コネクタに接続します。
2. もう片方のコネクタを、ハブやルータなどに接続します。

# 第4章 本製品の使用方法

この章は、本製品を使用するための方法について説明しています。

## 4.1 設定

ここでは、本製品を使用するための設定について説明します。

必要に応じて、本製品の LAN Interface (IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ) の設定を変更します。

LAN Interface を変更するためには、Web インタフェースを使用します。

Web インタフェースについては、ServerView CD-ROM 内の「ServerView ユーザーズガイド」を参照してください。

### ポイント

本製品には、以下の IP アドレスが初期設定されています。

IP アドレス : 192.168.0.10  
サブネットマスク : 255.255.255.0

### ポイント

Web インタフェースを使用するには、ブラウザ (Internet Explorer または Netscape) が必要です。本製品の初期設定値で Web インタフェースを起動する場合は、下記のように起動します。

(例) <http://192.168.0.10/serverview.html>

Web インタフェースを起動すると、ユーザ名、および、パスワードの入力画面が表示されます。本製品の初期設定値は、下記のようになっています。

ユーザ名 : root      パスワード : fsc

本パスワードは、運用を開始する前に変更することを推奨します。



## 4.2 Webインタフェース

ここでは、Web インタフェースについて説明します。

Web インタフェースでは、以下のことができます。

- ・ ログの表示、および、クリア
- ・ 環境の状態表示
  - 温度、FAN、電源など
- ・ アラーム（SNMP トラップ、E-Mail）通知の設定
- ・ 電源の操作
- ・ LAN Interface の設定
- ・ アカウントの設定

Web インタフェースの詳細については、ServerView CD-ROM 内の「ServerView ユーザーズガイド」を参照してください。

## 4.3 RemoteControlService

ここでは、RemoteControlService について説明します。

RemoteControlService では、以下のことができます。

- ・ ログの表示、および、クリア
- ・ 環境の状態表示
  - 温度、FAN、電源、ディスク、コントローラなど
- ・ 電源の操作

RemoteControlService の詳細については、ServerView CD-ROM 内の「ServerView ユーザーズガイド」を参照してください。

### ポイント

本製品に対して RemoteControlService を使用する場合、V3.03 以降の RemoteControlService を使用する必要があります。  
V3.03 以降の RemoteControlService は、V03.10 以降の ServerView CD-ROM に含まれています。

---

## 4.4 ServerView

ここでは、ServerView について説明します。

本製品が通知する SNMP トラップは、アラームサービスに対して通知することができます。アラームサービスは、ServerView に含まれています。

アラームサービスでは、以下のことができます。

- ・ トラップ内容の表示
- ・ トラップ内容のログ（システム上のイベントログへの格納）
- ・ トラップ内容のポップアップ
- ・ トラップのフィルタ

### ポイント

本製品が通知する SNMP トラップをアラームサービスで認識させるために、以下の設定が必要です。

アラームサービスのフィルタ設定において、“不明なサーバ”のチェックを外してください。

電源連動を実施している場合、ServerView では、以下のことができます。

- ・ 本製品の各種情報（ログ、温度、電圧）の表示

ServerView の詳細については、ServerView CD-ROM 内の「ServerView ユーザーズガイド」を参照してください。

### ポイント

本製品に対してアラームサービスを使用する場合、V03.10 以降の ServerView CD-ROM に含まれている ServerView を使用する必要があります。

## 4.5 電源連動

ここでは、電源連動について説明します。

電源連動は、サーバ本体に搭載されたりリモートサービスボードとの連携により実施します。電源連動により、サーバ本体の電源の投入／切断に連動して、本製品が搭載された拡張ディスク装置の電源の投入／切断を行うことができます。

本製品は、複数のサーバと連動することができます。また、電源連動は、複数の拡張ディスク装置を連動することができます。

電源連動を実施するためには、Web インタフェースを使用して電源連動の情報を設定します。この情報の設定により、以下のような動作となります。

本情報を設定したサーバ（以下、管理装置と呼称）の電源が投入／切断された場合、対象装置の電源が投入／切断されます。ただし、サーバは対象装置となりません。

同一対象装置を設定した管理装置が複数台ある場合、以下の動作となります。

- －管理装置のいずれか 1 台の電源が投入された場合、対象装置の電源が投入されます。
- －管理装置の全ての電源が切断された場合、対象装置の電源が切断されます。

### ポイント

電源連動を実施する場合、サーバ本体にリモートサービスボードが必要です。

- ・電源連動をサポートしたファームウェアが適用されている必要があります。
- ・電源連動をサポートした ServerView が適用される必要があります。

電源連動をサポートしたファームウェアの版数は、以下の通りです。

x.x.x.39 以下の場合：サポートしていません。

x.x.x.40 以上の場合：サポートしています。

電源連動をサポートしたファームウェアは、次の製品に含まれています。ファームウェアの適用方法については、「付録2 ファームウェアのアップデート」を参照してください。

V03.10 以降の ServerView CD-ROM

電源連動をサポートした ServerView は、次の製品に含まれています。

ServerView インストール時の留意事項については、「付録3 ServerView のインストール」を参照してください。

V03.10 以降の ServerView CD-ROM

電源連動の設定は、Web インタフェースで行ないます。

Web インタフェースー [Storage Subsystem] ページ

[New Storage Subsystem] ボタンをクリックすると、連動させる対象装置を新規作成する [Storage Subsystem] ページが表示されます。

[Change] または [Delete] ボタンをクリックすると、既存の設定を変更、または削除できます。

[Storage Subsystem] ページでは、以下の設定を行います。

- ・ [Name]  
対象装置のリモートサービスボードに設定されたユーザアカウントの Name を設定します。
- ・ [Old Password]  
対象装置のリモートサービスボードに設定されたユーザアカウントのパスワードを設定します。本設定は、[Change] の場合に表示します。
- ・ [New Password]  
対象装置のリモートサービスボードに設定されたユーザアカウントのパスワードを設定します。
- ・ [Confirm New Password]  
上記 [Password] に設定したパスワードを再度設定します。
- ・ [IP Address]  
対象装置のリモートサービスボードに設定された IP アドレスを設定します。
- ・ [Port]  
Port 番号を設定します。
- ・ [Startup Delay]  
対象装置の電源を投入する遅延時間を設定します。
- ・ [Retry Count]  
対象装置の電源投入／切断処理が失敗した場合のリトライ数を設定します。
- ・ [Retry Interval]  
対象装置の電源投入／切断処理が失敗した場合のリトライの間隔を設定します。

電源連動の情報設定は、以下の留意事項があります。

- ・ 本情報を新規に作成した場合、電源制御は、次回の管理装置の電源投入時から有効となります。
- ・ 本情報を削除した場合、対象装置は管理装置が電源切断されたものと見なします。
- ・ 対象装置を変更する場合、本情報は削除してください。その後、本情報を新規に作成してください。対象装置の IP Address を変更する場合も、同様の処理を行ってください。
- ・ 本機能により対象装置の電源制御を行う場合、対象装置のリモートサービスボードに設定されているユーザアカウントには、次の権限が許可されている必要があります。

Reset/Switch off

## 第4章 本製品の使用方法

---

### [電源連動の設定例（リモートサービスボード設定）]

	サーバ側	拡張ディスク側	サーバ側
LAN Interface			
IP Address	192.168.1.1	192.168.1.2	192.168.1.3
Storage Subsystems			
Name	root1	-	root1
Password	root1	-	root1
IP Address	192.168.1.2	-	192.168.1.2
Port	2402	-	2402
Startup Delay	0 seconds	-	0 seconds
Retry Count	5	-	5
Retry Interval	25 seconds	-	25 seconds
Account			
Name	-	root1	-
Password	-	root1	-
Permissions	-	Reset/Switch off	-

## 4.6 留意事項

ここでは、本製品を使用するための留意事項を説明します。

- Web Interface では、電源制御のスケジュール設定が可能です。  
本製品（拡張ディスクに搭載したリモートサービスボード）には、このスケジュールは設定しないでください。
- 電源連動を行う場合、サーバ本体に搭載したリモートサービスボードには、必ず AC アダプタを接続してください。  
また、AC アダプタの電源プラグは、サーバ本体の電源プラグを接続した電源とは異なる電源に接続してください。
- 電源連動により拡張ディスク装置の電源が投入され、動作可能状態となるまでに数分（最大 3 分）かかることがあります。
- 拡張ディスク装置内の温度が危険レベル（50°C）に達した場合、安全のため拡張ディスク装置の電源を切断します。  
温度が警告レベル（42°C）に戻った場合、拡張ディスク装置の電源は再度投入されます。
- ServerView にある拡張ディスク装置に対するファン、および、温度センサ異常時のアクション設定は、無効です。
- 本製品が搭載された拡張ディスク装置のキャビネット番号は、本製品に設定した IP アドレスで決まります。

（例）192.168.100.200 の場合

① ② ③ ④

$$\begin{aligned}\text{キャビネット番号} &= 256 \times \text{③} + \text{④} \\ &= 256 \times 100 + 200 \\ &= 25800\end{aligned}$$

キャビネット番号は、Web Interface や ServerView などの、各種情報の表示に使用しています。

- Web Interface または RemoteControlService を使用して拡張ディスク装置を単独で電源制御することが可能です。この機能は、サーバと連動していません。

# 付録

---

## 1 仕様

品名	リモートサービスボード
型名	PG-RSB101S
外部インターフェース	LAN(10/100Base-TX) x 1
温度センサ	1 個 (PCI カード上)
電圧センサ	4 個 (PCI+5V、サーバ本体電源、ボード内部電源、外部電源入力)
消費電力	最大 8VA
外形寸法	長さ 175 <sup>mm</sup> × 幅 107 <sup>mm</sup> × 高さ 14 <sup>mm</sup>
質量	約 0.2Kg
使用環境条件	拡張ディスク装置に添付の取扱説明書に記載された拡張ディスク装置の使用環境条件と同様。

## 2 ファームウェアのアップデート

サーバに搭載されたりモートサービスボードのファームウェアをアップデートする手順を説明します。

### ■用意

作業をはじめるまえに、以下のものをご用意ください。

- ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク  
ServerStart CD-ROM から作成します。以下に作成方法を示します。詳細は、「PRIMERGY ソフトウェアガイド」を参照してください。
  - 1 ServerStart の CD-ROM からシステムを起動します。
  - 2 ServerStart の画面で「フロッピービルダ」をクリックします。
  - 3 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクの作成」をクリックします。  
メッセージに従ってサーバ本体に添付の「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク」をフロッピーディスクドライブに挿入します。
  - 4 以降は画面のメッセージにしたがって作業を続行します。  
自動的にフォーマットされ、ファイルのコピーが開始されます。
- Remote Service Board Utility  
ServerView CD-ROM から作成します。以下に作成方法を示します。
  - 1 フォーマット済みのフロッピーディスクを 1 枚用意します。
  - 2 ServerView の CD-ROM 内の次のディレクトリにある全てのファイルを 1 のフロッピーディスクにコピーします。  
＜CD-ROM のドライブ＞:¥Svmanage¥Tools¥RSBFlash
  - 3 スタートメニューから、コマンドプロンプト画面を表示します。  
Windows NT の場合  
「スタート」－「プログラム」－「コマンドプロンプト」をクリックします。  
Windows 2000 の場合  
「スタート」－「プログラム」－「アクセサリ」－「コマンドプロンプト」をクリックします。
  - 4 コマンドプロンプト画面にて、次のコマンドを入力します。  
a: [Enter]  
abset [Enter]
  - 5 フロッピーディスクを取り外し、書込み禁止状態とします。



### ■アップデート手順

1. 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピィディスク」をフロッピィディスクドライブにセットし、サーバ本体の電源を投入します。
2. 表示されるメニューから、「Basic(RAIDUTIL)」を選択し、[Enter]キーを押します。  
MS-DOS が起動します。
3. サーバ本体のフロッピィディスクドライブに、Remote Service Board Utility をセットします。
4. ファームウェアをアップデートします。  
次のコマンドを入力します。  
b:\flashrsb [Enter]
5. アップデートの完了を確認します。  
アップデートが正常に完了した場合には、次のメッセージが表示されます。  
OK: Firmware flash successfully finished  
アップデートが失敗した場合には、次のメッセージが表示されます。  
ERROR: Firmware flash failed
6. アップデートが正常に完了した場合には、ファームウェアの版数を確認します。アップデートした版数は、処理開始時のメッセージに表示されています。  
MESSAGE: Flash firmware : Version x.x.x.xx

### ■アップデート再実行手順

ファームウェアのアップデートが失敗した場合は、再度ファームウェアのアップデートを実施してください。万が一、サーバ本体が起動しなくなった場合には、以下の作業を実施してください。

1. サーバ本体および周辺装置の電源を切り、電源ケーブルをサーバ本体から取り外します。
2. リモートサービスボードの AC アダプタを取り外します。
3. 10 秒以上経ってから、リモートサービスボードの AC アダプタを接続します。
4. サーバ本体の電源ケーブルを接続し、サーバ本体および周辺装置の電源を投入します。
5. ファームウェアのアップデートを再度実施します。

上記作業を行っても正常に動作しないような場合には、本製品を取り外し、弊社担当保守員にご相談ください。

---

## ■ 留意事項

- ・ ファイル属性の設定（abset）を行わずに Remote Service Board Utility を作成した場合、ファームウェアのアップデート時に下記のエラーが発生します。ファイル属性の設定を行った後、再度ファームウェアのアップデートを実施してください。

ERROR : File <core.bin> could not be opened!

ERROR : Firmware flash failed

## 3 ServerViewのインストール

リモートサービスボードが搭載されたサーバに ServerView をインストールした場合の留意事項を説明します。

ServerView をインストールした直後、または、リモートサービスボードを搭載した直後の OS 起動時に、リモートサービスボードが ServerView に認識されない場合があります。下記の手順に従い、確認・再認識・再インストールの処理を行ってください。

### ■ リモートサービスボードの確認

下記手順により、リモートサービスボードが ServerView に認識されていることを確認します。

1. [スタート] - [プログラム] - [Fujitsu ServerView] - [Fujitsu ServerView] をクリックし、ServerView を開きます。
2. “サーバの一覧ウインドウ” から対象装置のサーバを選択し、ダブルクリックします。
3. “ServerView ウインドウ” の各ボタンが有効であることを確認します。ServerView の初期処理に数分かかることがあります。[更新] ボタンをクリックして、各ボタンが有効になるまで待ちます。
4. [アクション] ボタンをクリックします。
5. “アクションウインドウ” の [RSB] ボタンが無効である場合、《リモートサービスボードの再認識処理》を行います。

### ■ リモートサービスボードの再認識処理

下記手順により、リモートサービスボードの再認識処理を行います。

- 1) OS を再起動します。
- 2) 《リモートサービスボードの認識》を行います。  
なお、この再認識処理を行った後、リモートサービスボードが認識されていない場合には、《ドライバの再インストール》を行います。

## ■ ドライバの再インストール

下記手順により、ドライバを再インストールします。

- 1) 管理者または管理者と同等の権限をもつユーザとしてログインします。
- 2) 実行中のアプリケーションを全て終了させます。
- 3) ServerView の CD-ROM から、以下を起動します。この処理により、エージェントがアンインストールされます。  
<CD-ROM のドライブ> : %Svmanage%\Japanese\Unagent.exe
- 4) システムを再起動します。
- 5) ServerView の CD-ROM から、以下を起動します。  
<CD-ROM のドライブ> : %Svmanage%\Tools\Addagent.exe
- 6) 「Agent Installation Actions」ダイアログボックスが表示されます。
- 7) 同時にインストールする他のエージェントを選択し、[OK] をクリックします。この処理により、デバイスドライバを含んだエージェントがインストールされます。デバイスドライバは、“Install ServerView agent” に含まれています。  
デバイスドライバのインストールは、ServerView の CD-ROM 内の「ServerView ユーザーズガイド」にある“インストール” – “オプション装置の追加インストール処理”も併せて参照してください。
- 8) 《リモートサービスボードの確認》を行います。  
なお、この再インストール処理を行った後、リモートサービスボードが認識されていない場合には、弊社担当保守員にご相談ください。

# Introduction

---

This document describes how to handle the Remote Service Board PG-RSB101S (simply called "this product" from here on).

This document describes how to handle this product.

Be sure to read this document before you use this product.

January, 2002

This Product is designed, developed and manufactured as contemplated for general use, including without limitation, general office use, personal use and household use, but is not designed, developed and manufactured as contemplated for use accompanying fatal risks or dangers that, unless extremely high safety is secured, could lead directly to death, personal injury, severe physical damage or other loss (hereinafter "High Safety Required Use"), including without limitation, nuclear power core control, airplane control, air traffic control, mass transport operation control, life support, weapon launching control. You shall not use this Product without securing the sufficient safety required for the High Safety Required Use. If you wish to use this Product for High Safety Required Use, please consult with our sale person in charge before such use.

Parts of this document may contain specific technology that falls under the Foreign Exchange and Foreign Trade Control Act. If a part of this document contains specific technology, authorization based upon the above law is required when this document is provided for export or to a non-resident.

## **For Safe Use**

---

This document describes important information for the safe and correct use of this product. Before you use this product, be sure to thoroughly read this document. In particular, be sure to thoroughly read and understand "Safety Precautions" at the beginning of the document. Store this document in a safe place so that it can be referred to during use.

# Safety Precautions

---

To ensure safe use of this product, be sure to observe the particulars described from here on. This document uses the following indications to prevent damage or injury that may be inflicted on yourself or others.



Ignoring this indication and mishandling this product may result in death or serious injury.



Ignoring this indication and mishandling this product may cause personal injury and only physical damage.

## ■ If an abnormality should occur

---



### Plug

If heat, smoke, odor, noise or other abnormality is detected on this product, immediately turn the power switch on the product OFF, and unplug the power plug from the power outlet.

Check that smoke is no longer being emitted from the product, and then contact a Fujitsu agent or Fujitsu maintenance person. The user must never repair this product by him or herself. Doing so is dangerous. Using this product in an abnormal state might cause fire or electric shock.

---

E



### Electric shock

Before mounting or removing this product from the storage extension, turn the power of the server unit and other connected devices OFF for safety's sake, and then unplug the power plug from the power outlet. If you mount or remove this product with power still ON, this product might malfunction, emit smoke, or cause electric shock.

### Prohibited Actions

- This is a precision manufactured product. Avoid using or storing it in high or low temperatures, high humidity, direct sunlight or other extreme conditions. Also, do not bend or damage the product or subject it to strong impact. Doing so might cause malfunction, fire or electric shock.
- Do not insert or unplug the power plug with wet hands. Doing so might cause electric shock.
- Use the AC adapter at only the indicated power voltages. Do not use at other power voltages. Also, never plug the AC adapter into a multi-plug power strip. Doing so might cause fire or electric shock.

### Plug

If lightning has struck nearby, unplug the power cable or modular cable from the power outlet. If this product is used as it is, the lightning will damage this product, and cause fire.

### Warning

When covers, caps, screws, batteries and other small items are removed from this product, place them in a location out of the reach of small children to prevent them from being swallowed. Consult a physician immediately if they are swallowed.

### Disassembly

Do not modify this product without permission. Doing so might cause fire or electric shock.





### Prohibited Actions

- When unplugging the power plug, do not pull the cable. Be sure to hold the plug by its body. If the power cable is pulled, the core leads in the power cable may be exposed or broken, resulting in fire or electric shock.

### Instructions

- Firmly insert the power plug into the power outlet as far as possible. Failure to do so might cause fire or malfunction.
- When this product is not used, store it in its packing bag (provided) to prevent the influence of static electricity.

---

## ■ Handling of Batteries

---



### Warning

When the batteries used on this product are removed, place them in a location out of the reach of small children to prevent them from being swallowed. Consult a physician immediately if they are swallowed.



### Prohibited Actions

- Use only the batteries described in this manual. Do not use other batteries. Doing so might cause the batteries to rupture and leak, resulting in fire or personal injury or dirty the surrounding area.
- Do not short circuit, heat, disassemble, or throw batteries in fire or water. Doing so might cause the batteries to rupture and leak, resulting in fire or personal injury or dirty the surrounding area.
- Do not recharge dry cells. Doing so might cause the batteries to rupture and leak, resulting in fire or personal injury or dirty the surrounding area.

### Instructions

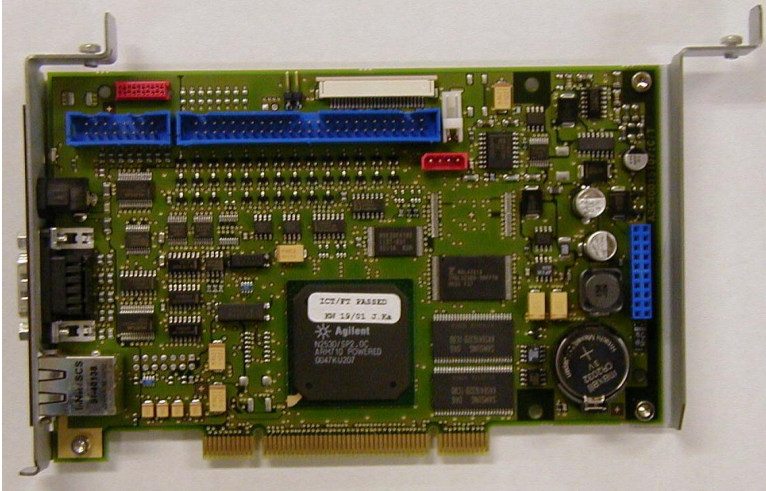
When inserting the batteries, pay attention to the battery polarities, plus (+) and minus (-). Inserting the batteries with the polarities reversed might cause the batteries to rupture and leak, resulting in fire or personal injury or dirty the surrounding area.

# Check the Contents of the Package

---

The following items are packed with this product. Before you use this product, make sure that the package contains all of these items. If there are any items missing, contact a Fujitsu Sales Office.

- PCI card



- ServerView CD (CD-ROM 1 p/ce)
- Warranty
- User's Manual (this manual)

# Conventions Used in This manual

---

## ■ Conventions for Text Descriptions

The following conventions and symbol are used in text descriptions:

 Point

This describes supplementary information for text descriptions.

# Table of Contents

---

Chapter 1 Product Overview .....	1
1.1 Features .....	1
1.2 Connectors and Interfaces .....	2
Chapter 2 Installing This Product .....	3
2.1 Preparations .....	4
2.1.1 Items to Prepare .....	4
2.2 Installation .....	5
2.2.1 Installing on storage extension .....	5
Chapter 3 LAN Connection .....	6
3.1 Connecting the LAN Cable .....	6
Chapter 4 Using This Product .....	7
4.1 Settings .....	7
4.2 Web Interface .....	8
4.3 RemoteControlService .....	8
4.4 ServerView .....	9
4.5 Power Interlock .....	10
4.6 Precautions .....	13
Appendix .....	14
1 Specifications .....	14
2 Updating the firmware .....	15
3 ServerView Installation .....	18

# Chapter 1 Product Overview

---

This chapter describes the features of this product and the names and functions of parts.

## 1.1 Features

This product operates independently of the state of storage extension through an exclusive CPU, OS and communications interface. It is a hardware device that controls the power supply and monitors the state of storage extension. This product is intended for the following:

### PRIMERGY S60

This product provides the administrator with the following functions in cooperation with related software (ServerView and RemoteControlService):

- Monitoring of storage extension states
- Notification of storage extension errors to the administrator
- Storage extension remote control
- Power control of storage extension interlocked with server unit (Power interlock)

#### Point

To perform power interlock, the Remote Service Board (PGURSB101) must be installed on the server unit.

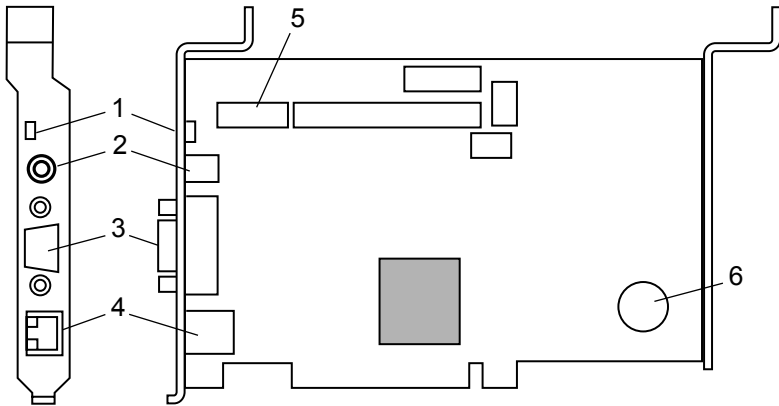
This product also supports the following communications interfaces:

- LAN (10BASE-T/100BASE-TX)

#### Point

The LAN cable is options, and are not provided with this product.

## 1.2 Connectors and Interfaces



### 1 Power LED

Lights green when this unit is ready.

### 2 External power connector

This connector is for connecting the AC adapter.

This connector is not used on this product.

### 3 Serial port connector (9-pin).

This connector is for connecting the external modem (option).

This connector is not used on this product.

### 4 10/100BASE-TX connector

This connector is for connecting unshielded twisted pair (UTP) cable. A category 5 cable is required when using this card at 100 Mbps.

### 5 Storage extension control connector (16-pin)

This connector is for connecting the storage extension control cable (16-pin).

### 6 Lithium battery (upper side: +, lower side: -)

# Chapter 2 Installing This Product

---

This chapter describes how to install the Remote Service Board on an storage extension.

To use the Remote Service Board, install the board and connect it to the LAN following the flow of operations indicated below.

For details on how to install the Remote Service Board, refer to the User's Manual provided with storage extension.

1. **Preparations**  
↓ → "2.1 Preparations"
2. **Setting the storage extension**  
↓ → "2.2.1 Installing on storage extension "
3. **LAN connection**  
→ "3.1 Connecting LAN Cables"

## 2.1 Preparations

Before you start installation on storage extension, prepare the following.

### 2.1.1 Items to Prepare

Prepare the following items:

- Remote service board
- User's Manual provided with the storage extension



---

## 2.2 Installation

This section describes the procedure for installing the Remote Service Board storage extension.

Before you start installation, perform the required preparations referring to "2.1 Preparations."

### 2.2.1 Installing on storage extension

This item describes the procedure for installing the Remote Service Board on the storage extension.



#### Electric Shock

Before attaching or removing this product from storage extension, turn the power switch on the storage extension and connected devices OFF, and unplug the power plug from the power outlet.

Attaching or removing this product with the power ON might damage devices or generate smoke, or cause electric shock.



#### Indications

- When removing and attaching the covers on storage extension, proceed with work while following the instructions in the User's Manual provided with the storage extension.
- The Remote Service Board is easily affected by static electricity. Either place the board on an electroconductive pad, or insert the board in its packing immediately after removing it or up to before it is installed.

- 
- Connect the control cable for controlling the storage extension to storage extension control connector (16-pin) on the Remote Service Board.  
For details on how to attach the cable, refer to the User's Manual provided with the storage extension.
  - When this product is used, the settings on the storage extension must be changed.  
For details, refer to the User's Manual provided with the storage extension.

# Chapter 3 LAN Connection

---

This chapter describes how to connect the Remote Service Board to the LAN.

Connecting the Remote Service Board to the LAN enables the power interlock with the main server, and transmission of error notices (SNMP trap, E-mail) from the Remote Service Board.

## 3.1 Connecting the LAN Cable

This item describes the procedure for connecting the LAN cable to the Remote Service Board

### ■ Connecting procedure

1. Connect the LAN cable to the Remote Service Board.  
Connect the connector on the LAN cable that you prepared to the 10/100 BASE-TX connector of the Remote Service Board.
2. Connect the other connector to the hub or router.

# Chapter 4 Using This Product

---

This chapter describes how to use this product.

## 4.1 Settings

This item describes settings for using this product.

Change the LAN interface setting (IP address, subnet mask, gateway) of this product as required.

Use the Web interface to change the LAN interface.

For details on the Web interface, refer to the "ServerView User's Guide" on the ServerView CD-ROM.



Point

The following default IP addresses are set to this product:

IP address	: 192.168.0.10
subnet mask	: 255.255.255.0



Point

To use the Web interface, Internet Explorer or Netscape is necessary. When starting up the Web interface using this product's defaults, start up as follows:

(Example) <http://192.168.0.10/serverview.html>

When the Web interface is started up, the screen for entering the user name and password is displayed. This product's defaults are as follows:

User name: root

Password: fsc

We recommend changing this password before starting operation.

## 4.2 Web Interface

This item describes the Web interface.

The following operations are possible on the Web interface:

- Display and clearing of logs
- Display of environment states  
Temperature, fans, power supply, etc.
- Alarm (SNMP trap, E-mail) notification setting
- Power supply operations
- Setting of the LAN interface
- Setting of accounts

For details on the Web interface, refer to the "ServerView User's Guide" on the ServerView CD-ROM.

## 4.3 RemoteControlService

This item describes RemoteControlService.

The following operations are possible on RemoteControlService:

- Display and clearing of logs
- Display of environment states  
Temperature, fans, power supply, etc.
- Power supply operations

For details on the RemoteControlService, refer to the "ServerView User's Guide" on the ServerView CD-ROM.



Point

To use RemoteControlService on this product, RemoteControlServer V3.03 or later must be used.

RemoteControlService V3.03 or later is included on ServerView CD-ROM V03.10 or later.

---

## 4.4 ServerView

This item describes ServerView.

SNMP traps notified by this product can be notified to AlarmService.

The following operations are possible on AlarmService:

- Display of trap details
- Logging of trap details (storage to event log on system)
- Pop-up display of trap details
- Filtering of traps



Point

The following must be set to recognize SNMP traps notified by this product on AlarmService.

Unmark the "Unknown server" checkbox in the AlarmService filter settings.

When power interlock is being implemented, the following operations are possible on ServerView:

- Display of product information (logs, temperature, voltage)

For details on ServerView, refer to the "ServerView User's Guide" on the ServerView CD-ROM.



Point

To use AlarmService on this product, ServerView included on ServerView CD-ROM V03.10 or later must be used.

## 4.5 Power Interlock

This section describes the power interlock.

Power interlocking is implemented by linking to the Remote Service Board mounted on the server unit. This power interlock enables storage extension on which this product is mounted to be turned ON/OFF interlocked with server unit power ON/OFF.

This product can be interlocked with multiple servers, and the power interlock can be applied to multiple storage extension.

To implement a power interlock, use the Web interface to set the power interlock information. Operation is as follows when this information is set:

When the server (simply called "controlled device" from here in) that is set with this information is turned ON/OFF, the target device is turned ON/OFF. Note, however, that servers cannot be set as target devices.

When there are multiple controlled devices that have been set as the same target device, operation is as follows:

- When one of the controlled devices is turned ON, the target device is turned ON.
- When all of the controlled devices are turned OFF, the target device is turned OFF.



### Point

To implement the power interlock, the Remote Service Board is required on the server unit.

- Firmware that supports power interlock must be made applicable.
- ServerView that supports power interlock must be made applicable.

The firmware versions that support power interlock are listed below.

x.x.x.39 and lower: Do not support

x.x.x.40 and above: Do support

Firmware that supports power interlock is included in the following products. Refer to Appendix 2 "Firmware Update."

ServerView CD-ROM V03.10 and later.

ServerView that supports power interlock is included in following products.

For hints on installing ServerView, refer to "Appendix 3 Installing ServerView."

ServerView CD-ROM V03.10 and later.

Set the power interlock on the Web interface.

Web interface [Storage Subsystem] page

Click the [New Storage Subsystem] button. This displays the [Storage Subsystem] page for creating new target units to interlock.

You can change or delete existing settings by clicking the [Change] or [Delete] buttons.

Make the following settings in the [Storage Subsystem] page:

- 
- [Name]  
Set the name of the user account that is set on the Remote Service Board on the target device.
  - [Old Password]  
Set the password of the user account that is set on the Remote Service Board on the target device. This setting is displayed when [Change] is selected.
  - [New Password]  
Set the password of the user account that is set on the Remote Service Board on the target device.
  - [Confirm New Password]  
Re-set the password set at [Password] above.
  - [IP Address]  
Set the IP address that is set to the Remote Service Board on the target device.
  - [Port No.]  
Set the port No.
  - [Startup Delay]  
Set the delay until the power of the target device has turned ON.
  - [Retry Count]  
Set the number of retries when power ON/OFF processing on the target device has failed.
  - [Retry Interval]  
Set the retry interval when power ON/OFF processing on the target device has failed.

The following precautions apply when setting power interlock information:

- When new power interlock information has been created, power control is enabled when the controlled device is next turned ON.
- When the power interlock information has been deleted, the target device regards that the controlled device has been turned OFF.
- To change a target device, delete the power interlock information, and then create new power interlock information. Perform the same when changing the IP address of a target device.
- When this function is used to control the power of a target device, the following privilege is sometimes enabled on the user account currently set to the Remote Service Board on the target device.

Reset/Switch off

[Example of power interlock settings (Remote Service Board Settings)]

	Server	Storage Extension	Server
LAN Interface			
IP Address	192.168.1.1	192.168.1.2	192.168.1.3
Storage Subsystems			
Name	root1	-	root1
Password	root1	-	root1
IP Address	192.168.1.2	-	192.168.1.2
Port	2402	-	2402
Startup Delay	0 seconds	-	0 seconds
Retry Count	5	-	5
Retry Interval	25 seconds	-	25 seconds
Account			
Name	-	root1	-
Password	-	root1	-
Permissions	-	Reset/Switch off	-



---

## 4.6 Precautions

The following describes precautions when using this product.

- It is possible to set the power control schedule in Web Interface. Do not set the schedule on this product (remote service board mounted on the storage extension).
- When power interlock is operating, be sure to connect the AC adapter to the Remote Service Board that has installed the server.

Further, connect the AC adapter power plug to a power supply that is different from the power supply to which the server unit power plug is connected.

- Storage extension can be turned on with power interlock, but it might take a few minutes (maximum 3 minutes) before reaching operating status.
- If the internal temperature of the storage extension reaches a dangerous level (50°C) the power to the storage extension turns off to be safe.

When the temperature returns to the warning level (42°C) the power turns on again.

- Abnormal action settings for the fan and the temperature sensor for ServerView's storage extension are invalid.
- The cabinet number for the storage extension mounted on this product is determined by the IP address of this product.

The cabinet number is determined by the following equation when the IP address is as shown in the following example.

$$\begin{aligned} \text{(Example)} \quad & 192 . 168 . 100 . 200 \\ & (1) \quad (2) \quad (3) \quad (4) \\ \text{Cabinet number} &= 256 \times (3) + (4) \\ &= 256 \times 100 + 200 \\ &= 25800 \end{aligned}$$

The cabinet number is used to display information such as Web Interface and ServerView.

- It is possible to independently control the power supply to the storage extension by using Web Interface or Remote Control Service. This function does not operate with the server.

# Appendix

---

## 1 Specifications

Product Name	Remote service board
Model No.	PG-RSB101S
External Interface	LAN (10/100Base-TX) x 1
Temperature sensor	1 (on the PCI card)
Voltage sensor	4 (PCI + 5V, server unit power supply, board power supply, external power input)
Power consumption	Max. 8VA
External dimensions	L 175 mm x W 107 mm x H 14 mm
Weight	Approx. 0.2 kg
Operating environment conditions	Same as operating environment conditions of the storage extension described in the User's Manual provided with the storage extension.

---

## 2 Updating firmware

This section explains the procedure for updating the firmware for the Remote Service Board mounted on the server.

### ■ Preparation

- Floppy disk for starting up the hardware configuration tool  
Create the MS-DOS bootup disk from the ServerStart CD-ROM. The following describes how to create the MS-DOS bootup disk. For details, refer to the "PRIMERGY Software Guide."
  1. Boot up the system from the ServerStart CD-ROM.
  2. Click "Floppy Builder" in the ServerStart screen.
  3. Click "Create a Hardware Configuration Tool Boot Floppy"  
Follow the on-screen message, and insert the "Hardware Configuration Tool Boot Floppy" attached with the server unit into the floppy disk drive.
  4. From here on, continue the procedure following the on-screen messages.  
The floppy disk will be automatically formatted, and copying of files will begin.
- Remote Service Board Utility  
Create this utility from the ServerView CD-ROM following the procedure below.
  1. Prepare a formatted floppy disk.
  2. Copy all of the files in the following directory on the ServerView CD-ROM to a floppy disk.  
`<CD-ROM drive> : \Svmanage\Tools\RSBFlash`
  3. Display the command prompt screen from the Start menu.  
Windows NT  
Click "Start" - "Program" - "Command Prompt".  
Windows 2000  
Click "Start" - "Program" - "Accessory" - "Command Prompt".
  4. Enter the following commands in the command prompt screen.  
a : [Enter]  
abset [Enter]
  5. Remove the floppy disk, and enable write protection.

### ■ Updating procedure

1. Insert the "Hardware Configuration Tool Boot Floppy" in the floppy disk drive, and turn on the server.
2. Select "Basic (RAIDUTIL)" from the menu that is displayed, and press the [Enter] key.  
MS-DOS is started up.
3. Insert Remote Service Board Utility into the floppy disk drive on the server unit.
4. Update the firmware.  
Enter the following command:

```
b: \ flashrsb [Enter]
```

5. Check that the update has ended.  
When the update ends normally, the following message is displayed:

```
OK: Firmware flash successfully finished
```

If the update files, the following message is displayed:

```
ERROR: Firmware flash failed
```

6. When the update has ended normally, check the firmware version. The newly updated version is displayed in the message that appears when processing is started.  
MESSAGE: Flash firmware : Version x.x.x.xx

### ■ Re-update Procedure

If the firmware update fails, re-update the firmware. If the server no longer starts up, perform the following.

1. Turn the server and peripherals off, and disconnect the power cable from the server.
2. Disconnect the AC adapter from the Remote Service Board.
3. Wait at least ten seconds before reconnecting the AC adapter to the Remote Service Board.
4. Connect the power cable to the server, and turn on the server and peripherals.
5. Re-update the software.

If this product does not function normally after performing the above procedure, remove this product and contact a Fujitsu service engineer.

---

■ Hint

- If you create Remote Service Board Utility without setting (abset) the file properties the following errors occur when the firmware is updated. After setting the file properties update the firmware again.

ERROR: File <core.bin> could not be opened!

ERROR: Firmware flash failed

## 3 ServerView Installation

This section explains the hints for installing ServerView on a server if the Remote Service Board has been mounted.

Immediately after installing ServerView, or immediately after mounting the remote service board when starting the OS, ServerView may not recognize the remote service board. If this happens, follow the procedure below to do the confirm, re-recognize and reinstall processes.

### ■ Remote Service Board Confirmation

Confirm whether the remote service board is recognized by ServerView according to the following procedure.

1. Open ServerView by clicking [Start]-[Program]-[Fujitsu ServerView]-[Fujitsu ServerView].
2. Select the target server from the “Server List window” and double click it.
3. Confirm that each of the buttons on the “ServerView window” are enabled. It will take a few minutes to initialize ServerView. Click [Refresh] and wait for each button to be enabled.
4. Click the [Recovery] button.
5. If the [RSB] button in the “Recovery window” is not enabled then do the <<Remote Service Board Re-recognition Process>>.

### ■ Remote Service Board Re-recognition Process

Do the remote service board is re-recognition process according to the following procedure.

- 1) Restart the OS
- 2) Do <<Remote Service Board Confirmation>>.

After doing the re-recognition process, if the remote service board is not recognized do <<Reinstall Driver>>.

---

## ■ Reinstall Driver

Reinstall the driver according to the following procedure.

- 1) Log on as an administrator or as a user having the same privileges as an administrator.
- 2) Exit all currently executing applications.
- 3) Start up the following from the ServerView CD-ROM. This uninstalls agents.  
<CD-ROM drive> : \Svmanage\English\Unagent.exe
- 4) Reboot the system.
- 5) Start up the following from the ServerView CD-ROM.  
<CD-ROM drive> : \Svmanage\Tools\Addagent.exe
- 6) The Agent Installation Actions dialog box is displayed.
- 7) Select other agents to install at the same time, and click [OK]. This installs agents including the device driver. The device driver is contained in "Install ServerView agent".

For details on installing the device driver, also read "Installing Additional Optional Devices" under "Installation" in the "ServerView User's Guide" in the ServerView CD-ROM.

- 8) Do <<Remote Service Board Confirmation>>.  
After reinstalling, if the remote service board is not, contact a Fujitsu service engineer.

---

PRIMERGY  
リモートサービスボード  
(PG-RSB101S)  
取扱説明書

Remote Service Board  
(PG-RSB101S)  
USER'S GUIDE

P3FY-2060-01

発行日 2002年1月  
発行責任 富士通株式会社

Published by Fujitsu, Ltd., January, 2002

Printed in Japan

---

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。
- Contents of this book are subject to change for improvement without notice.
- The publisher won't be responsible or liable for any infringement on patent rights or other rights of the third parties resultig from unauthorized use of data appearing in this book.
- No part of this book may be reproduced in any from without permission.
- If there is any missing page in this book or the pages are out of order, the book will be exchanged by the pulisher on request.





このマニュアルは再生紙を使用しています。